

アブネルについて

1. サウル王の軍隊の将軍であったアブネルは、1サム14:50を始めとして、聖書に何度も出て来ます。それで表紙の図には、彼の名前は大きく記されていますが、彼の登場するのはほとんどが2サム2章と3章です。

2. 生涯の終わりに近い頃、(2サム3章)彼はダビデの側につきましたが、それまで彼はベニヤミン人として(3:8)間違っただけについて力を争っていました。しかし彼は悪人ではありませんでした。不必要に人を殺す事はしなかったし(2:21-22,26)、最後には他のベニヤミン人と共にダビデに従いました(3:19)。

3. 最も興味深い疑問は、なぜ彼が突然ダビデの側につく事になったかという事です。ヨアブは、アブネルがダビデをだまそうとしているのだと言いました(3:25)。しかしそれは真実ではなく、むしろヨアブこそが欺く者でした。

4. 外面的には、アブネルの傀儡王との衝突(3:7-11)が、ダビデに対する心の変化をもたらしたと言えるでしょう。しかし、アブネルが力を持っていた(3:6) サウルの家が、次第にダビデの家に対する戦いに負けていった事は、その要因になったかもしれません。

5. アブネルはダビデが王になる事は主の宣言されたみこころだと、2回も言いました(3:9-10, 3:18)。この事は、彼が本当に悔い改めた事を表わしていますか？それともただ、ベニヤミンの家が王位を継ぐ事をあきらめたただけですか？

6. 3章の終わりでは、アブネルが殺された事にダビデは関係がないこと、またダビデがアブネルに対して、ヨアブに対するよりも敬意を払っていた事が強調されていることに注目して下さい。

アブネルはどんな人物でしたか？

2サム3:6-39から、アブネルはどんな人物だったと言えるでしょうか？下のリストを参考に考えてみましょう。彼についてあてはまるもの、そうでないもの、部分的に正しいものなど、それぞれに印をつけましょう。そこからはっきり読み取れないものには、？をつけて下さい。その後で右ページの空欄に、アブネルについてまとめてみましょう。

偉大な人／指導者 (3:38)

サウル軍の将軍 (1サム 14:50, 26:15)

政治的リーダー (3:6-21)

国王擁立者 (2:8-9, 3:6, 9-10, 17-19)

イシュ・ボシェテより権力あり (3:11)

ダビデの人気を意識していた (3:17-18)

次第に負けている事を承知 (3:1)

自分のために権力を求めた (3:6-7)

自分の非を認めようとしなかった (3:7-10)

サウルの家に忠実 (3:8-10)

自信過剰 (3:9-10)

調停者 (2:26, 3:20-21)

神のみこころを意識 (3:9-10, 17-18)

みこころを行なった (3:9-10, 17-18)

ダビデに高く評価された (3:31-39)

正しい事を間違った理由で、行なった

真に悔い改め、救われた

ヨアブに嫌われた(3:27)

ヨアブに殺された (3:27, 1列王 2:5)

ダビデの命令で殺された (3:26-39)

ヨアブを含む全ての人に悼まれた (3:31)

ヨアブのように欺く者 (3:25, 27, 34)

ヨアブのような悪人 (3:34, 39)

アブネル

アブネルはサウル王のいとこであり、また将軍でした(1サム14:50)。ヨアブがダビデのいとこであり、将軍であった事と似ています。この事から私たちは、アブネルがサウルのように悪人であり、ヨアブはダビデのように良い人なのかと思ってしまいます。しかしイスラエルの歴史の重大な転機に、それは全く逆になりました(2サム3章)。ヨアブは悪人で人殺しであり、欺く者でしたが、アブネルは真実で役立つ者であり、尊敬されました(3:39)。なぜ、このような事になったのでしょうか？それを理解するために、前に書かれている事を復習しなければなりません。

1サム26章でアブネルは、サウル王がダビデを殺す計画に追随しました。しかしアブネルの名前は、サウルがいくつかの大きな罪を犯した時(1サム13, 15, 22, 28章)に出て来ていません。彼はそれぞれの所にいなかったかもしれませんが、いたとしても、それらの記事はサウルの個人的な責任を強調するため、彼の名前は記録されていなかったのでしょうか。サウルの家来たちの中で、ドエグは悪事をした者としてはっきり記されていますが(22:9-23)、アブネルは一度だけサウルを注意深く守らなかったと非難されているだけです(26:14-26)。だからアブネルはそれほど悪い人ではなかったでしょう。

2サムエル記において、サウルの死後アブネルはもっと責任ある地位にあります。だから彼の名前は、2サム2章と3章に、1サムエル記の合計よりも多く出て来ます。みこころに逆らってイシュ・ボシェテを王にしたのは彼でした(2サム8-10)。しかし彼は、それが正しくない事を知っていたようです(3:9-10)。そしてそれが成功しない事が分かった時、彼はダビデの側に付きました。戦いの不利な状態、またイシュ・ボシェテとの衝突も通して、ベニヤミン族で王位を継承するためにした彼の努力は無駄になった事を知り、3章8節のイシュ・ボシェテに対する怒りとなったのでしょうか。

2サム3:6-7は、アブネルが自分で王になりたいと思っていた事を示しているのでしょうか？イシュ・ボシェテは、そう思っていたかもしれませんが、それだけではないでしょう。基本的にアブネルの行動は、彼がイシュ・ボシェテをサウルの正当な後継者だと認めていなかった事を示しています。彼はイシュ・ボシェテが王になるはずだとは思っていませんでした(3:9-10)。もしそう思っていたのなら、もっと違う行動をとっていたでしょう。彼は、サウルの息子に期待していませんでした。自分に自信はあったでしょうが、ダビデの家との長い戦いで、戦況は不利でした(3:1)。だから彼が矛盾した行動を取った事や、問題を指摘された時(3:6-7)、考えを変えてダビデの側についた事は驚くことではありません。

(3:31-39)

ダビデにとってアブネルは...

敬意を払うリーダー

ライバルでなく、助け

大きな損失、悲しみ悼む

ヨアブのような悪人でない

アブネルは神が選ばれた王の側についた時、真に悔い改めたのでしょうか？ヨアブは、そうではないと言いました(3:24-25)。しかしアブネルの行動と言葉(3:9-10)やヨアブに対する誤りを与えた信頼(3:26-27)から見ると、それは真実であったでしょう。アブネルがヨアブを信頼したのは、彼がダビデを信頼していたからでした。残念ながら彼は殺されましたが、一番大事な事は、彼が最後には正しい側にいた事です。

神様は、アブネルを失敗を通してダビデの側に付くように導かれました。同じように、主は私達一人一人を、世的な私利を追求する事から離れ、イエス様の側に立つように、今も働かれておられます。主は恵み深いお方です。